

DMAT 関東ブロック訓練に城西チーム参加

関東1都6県のDMAT（災害派遣医療チーム）が参加したDMAT関東ブロック訓練が2月10日、栃木県庁や県内の拠点病院などを会場に行われました。DMAT隊員など約750人が参加した訓練は、9日から10日早朝にかけて那須岳噴火や宇都宮直下型地震などが発生、多数の被災者が出たという想定でスタート。城西病院のDMATは、インターネットの指令により栃木県西部の災害拠点病院になっている真岡市の芳賀日赤病院に駆け付け、訓練を行いました。

今回の訓練は、地震などで多くの被災者が県内の医療機関に殺到したという想定で行われました。芳賀日赤病院は、栃木県西部の医療機関を統括する災害拠点病院で、同病院で診療を行うとともに、エリア内の病院のサポートなども行っていく役目があります。芳賀日赤病院には32隊のDMATが参集し、その後24隊が獨協医科大学病院などに応援に行き、芳賀日赤病院では10隊が活動しました。城西病院のDMATは、芳賀日赤病院に到着してすぐ、エリア内の茂木町の茂木中央病院で病院の状況把握と病院サポートをし、その後、芳賀日赤病院で初期診療（ER）の応援に当たりました。

初期診療では、災害によって自力で病院に駆け付ける人も多く、こうした被災者の治療やケアも大切な役割になってきます。城西病院のDMATは、初期診療で黄色タグ（軽症者）の治療やケアを担当しました。軽いやけどや傷を負ったり、腰が痛いなどの持病が悪化したという想定のお客さんに対して、一人ひとり処置などを行っていきました。

芳賀日赤病院では76人の被災者が詰めかけ、うち23人が重症の赤タグで、DMATや民間救急車で搬送、20人が黄色タグのうち2人が重症となり赤タグに変わったという想定で、本番さながらの緊迫した空気の中で訓練が繰り返されました。

平成30年2月13日



茂木中央病院

